



Title	琉球王国接貢制度の研究：清代における「接貢」に関わる人々の往還の分析：家譜資料を中心に( Review_審査要旨)
Author(s)	富田, 千夏
Citation	
Issue Date	2014-09-30
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/29914">http://hdl.handle.net/20.500.12000/29914</a>
Rights	

琉球大学大学院  
人文社会科学研究所委員会 殿

博士論文審査委員会

主査 赤嶺 守 印

副査 豊見山 和行 印

副査 大城 学 印



学位（博士）論文審査の結果報告書

このたび、博士論文審査委員会として、学位論文の審査を終了しましたので、その結果について、下記の通り報告します。

記

学生番号	078095C	学生氏名	富田 千夏
人文社会科学研究所 比較地域文化専攻		主指導教員	赤嶺守
		副指導教員	豊見山和行・大城学
成績評価	学位論文	合格	
論文題目	琉球王国接貢制度の研究 ―清代における「接貢」に関わる人々の往還の分析<家譜資料を中心に>		
審査要旨	<p>本論文では、これまで明確な定義がなされていなかった接貢船派遣の始期について、接貢船派遣の中国側受け入れが康熙 24 (1685) 年、実際に運用したのは康熙 28 (1689) 年であることを確認し、計 104 件の接回事例を基に進貢体制における接貢制度の特質を明らかにしている。とくに本論文では、各船隻のデータの分析を通じて、久米村系士族から多く派遣された接貢船在船都通事・接貢船存留通事・総管、主に首里・那覇・泊系士族が務めた才府・官舎・大筆者・脇筆者、百姓身分が多く務めた船頭や下層乗務員（五主や佐事・加子等の船方）について、その職務内容や経歴・人選の過程及び高齢化する年齢的特徴を分析し、それが進貢体制の中でどういった意義を有し、王府の進貢貿易の運用に影響していたのか具体的に事例を挙げ解明している。久米村系士族については、それらの昇進に関わる国内職についての類型化を試み、船頭や佐事・加子等の任命や派遣形態については、船固定型の移動と継続派遣を基本とした船単位で構成された集団としてなされていたことを明らかにしている。さらに直接貿易に関わっていた五主については、職務遂行にあたって商品についての知識や商業上の慣習に熟知した「現場感覚」のあるものが優先され、その渡航回数や職種の特徴を詳細に分析している。</p> <p>博士論文審査会は、本論文が優れた独創性を持ち、課題を論理的且つ体系的に解明しており、十分に学位の水準に達しているものと判断した。</p>		

琉球大学大学院  
人文社会科学研究所委員会 殿

博士論文審査委員会

主査 赤嶺 守 印

副査 豊見山 和行 印

副査 大城 学 印



最終試験の結果報告書

このたび、博士論文審査委員会として、最終試験を終了しましたので、その結果について、下記の通り報告します。

記

学生番号	078095C	学生氏名	富田 千夏
人文社会科学研究所 比較地域文化専攻		主指導教員	赤嶺守
		副指導教員	豊見山和行・大城学
成績評価	最終試験	(合格) 不合格	
結果要旨	<p>副査・豊見山和行の総括のもとで、申請のあった博士論文の内容と、それに関連する授業科目についての口頭による最終試験を行った。本論文の題目は「琉球王国接貢制度の研究 ―清代における「接貢」に関わる人々の往還の分析&lt;家譜資料を中心に&gt;」である。以下の4点を軸に試験を行った。</p> <p>まず、口頭試問での関連質問を行い、本論文が学位の水準に達していることを確認した。次に本論文に関連する基礎的な専門知識や論文の研究上の位置付けを問い、これまでの研究成果を踏まえ、新たに創造的な知見を加え、研究が体系的に整理されているのかといった研究上の貢献を確認した。そして、本博士論文で取り上げた研究分野に関連する授業科目「琉中関係研究特論」「琉中関係研究演習」「比較地域文化特別研究」「比較地域文化総合演習」などの履修によって得た視点、さらに学術書や学術誌への投稿も積極的に行っていること等々、学位にふさわしい研究能力を有していることを確認した。</p> <p>以上の点から、本審査委員会は当該学生が学位の水準に達していると認め、最終試験に合格したと判断した。</p>		